

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



なごや
ちくさ
WEEKLY

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会会場 愛知厚生年金会館
事務局 千464 千種区池下一丁目4番18号
井上ビル4F D号
Tel 763-5110
会長 竹内真三

No.31 (1983~1984)

みんなにロータリーを —— みんなに奉仕を
Share Rotary —— Serve People

1983~84年度RI会長 ウィリアムE. スケルトン

第75回例会 昭和59年2月7日(火) 雪

◇ “君が代” “我等の生業”

◇ 出席報告

会員 52名 出席 43名
出席率 82.69%

◇ 前回 1月31日(修正出席率) 100%
make up

浜口君(2/2瑞穂), 加藤(大)君(2/1南), 黒野君(2/2瑞穂), 松藤君(1/31津南), 松居君(2/1南), 水野(賀)君(2/4守山), 成田君(2/1南), 新美君(2/4守山), 笹野君(2/4守山), 手島君(2/4守山), 鶴飼君(2/4守山)

◇ ビジター紹介 2名

◇ 誕生日祝福

加藤(大)夫人(2/1), 西川君(2/12)

◇ ニコボックス

成田君(本日バッジを忘れまして), 松藤君(先日無届け欠席しました), 菅原君(“とろいことやとるな” 10万部突破しました, また日経に載りました), 手島君(ホームクラブ欠席しましたので), 水野(賀)君(ホームクラブ連続欠席しました), 加藤(大)君(夫人誕生日), 西川君(誕生日), 鈴木(猛)君(結婚記念祝), 堀江君(結婚記念祝)

◇ 三輪幹事報告

1. 本日例会終了後, ロータリー情報委員長より新入会員の方々にお話がありますので出席の方は2F橋の間にお集り下さい。
2. 第258地区東京武蔵野RCの認証状伝達式(S59.3/29)の案内が届いております。参加希望者は事務局までお申し出下さい。
3. 1月度(1/31)理事役員会の報告を申し上げます。

① 新入会員候補者1名を職業分類・会員選考委員会に提出いたしました。

② 加藤保三君, 山村誠二君の退会を承認いたしました。

③ 当クラブ慶弔規定が設定されました。

◇ ポールハリスフェロー記念メダル授与

林 淳三君, 笹野義春君

◇ 竹内会長挨拶

本日は19年ぶりの大雪にも拘らず, 無事例会が開かれることを幸いと思います。しかも春も間近でしょう。4月の花見を兼ねた川奈のゴルフ懇親会も是非お出かけ頂きたいものです。

さて, 中曽根総理大臣は『教育臨調』の考え方を発想しその手続きを今国会から研究したいと発表しました。新しい学校制度が発足して略30年。善きにつけ悪きにつけ今一度独自に発想してみるというのも大変に結構ではないかと思えます。

現代に生きるものの責務として願わくば『21世紀の日本の低迷は戦後30年間の教育荒廃の賜』と言われぬ様形式ばかりでなく内容の充実が求められましょう。前々から申し上げてます様に Knowledge (知識) ばかりでなく Wisdom (英知) への配慮が十分になされる様願うものです。

さて田中元首相が訪中されて電光石火日中の国交を再樹立されたのは確か1972年秋であった様に記憶しています。人民大会堂での歓迎宴で, 『乾杯』^{カンペイ} といって酒杯を交換する有様や周首相自ら箸でテーブルの御馳走をとり分けたりの仕事が今も印象に残っております。

その3年後, 国交こそ回復したものの民間の交流は殆んどなかった頃即ち1975年の暮から約10日間 Iran (イラン) 旅行の機会に恵まれました。帰国時, イラン航空に乗ったのは明けて1976年1月11日でした。たった10日間でしたが世の中どうなったかいなと久しぶりに新聞をみますと何と中国の No.2 「周恩来1月8日逝去」とあるではありませんか。機

中は仲間とこの話でもちきりでした。その後私の飛行機は給油のため暁の北京空港に着陸したのです。朝日に映える空港は全く静かで窓からはTVでみた例の「毛主席万才」の看板が朱色も鮮やかに眺められました。

暫くするとカーキ色の制服をきた兵士が数名パスポートの点検のため機中に入ってきました。その中に背のスラリとした若い女紅衛兵がいました。同じツアーのOさんが彼女に「周総理がお亡くなりになって心からお悔み申し上げます」「これから仲よしになるとういう時に大変残念です」と言われますと、暫く間をおいて何と彼女の大きな瞳から大粒の涙がハラハラと落ちるではありませんか。大変だ大変だと我々は言いながら内心は「又世界が変わゾ」位の興味半分でしたが、ひとしずくの清冽な涙を見た途端一同肅然として沈黙の外ありませんでした。周総理の死が中国にとって又中国の人々にとって如何様な重味があったのかを垣間見る思いがして胸打られました。

私、この種の『涙』に会った事はありません。今の私はそれは『志』と同じですもの疑いなく同志を失った或は志を貫くための指導者を失った涙だったんだと解釈しています。ヒョッとすると敗戦時に日本人の流した涙と同質だったのかも知れません。政治の制度の良の悪しは私には解りませんが只今の日本にこの紅衛兵の涙を流せる子女の居らぬ事だけは確かでしょう。

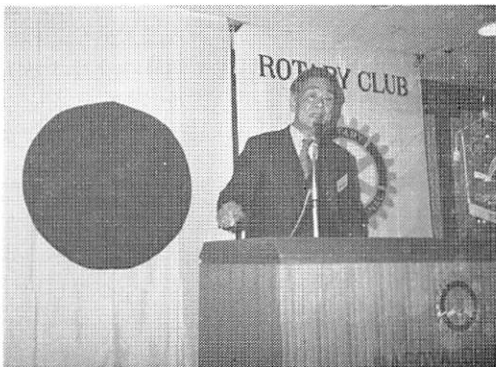
この『涙』教育と環境の然らしむる処……とでも申せましょう。今の日本に最も問題となるもの、それは「感動なき社会」「志なき社会」「拝金主義の社会」という事ではないでしょうか。教育臨調に諸手を挙げて賛意を表する所以であります。

◇講演

“ゲーム島28年のサバイバル生活”

生活評論家 横井 庄一氏

(紹介 加藤(大)君)



帰国して12年、私自身、サバイバルの意味

さえよく分からないのです。ただ47年1月24日、偶然発見されるまでの私の生活をサバイバルと言われるなら、そんなものかと思う程度です。私にとっては、生きる為に、あらゆる苦勞を乗り越えなくてはならなかった。それだけの事だったのです。しかし、今振り返って見ると、生まれた時より、私はサバイバルという道を歩かなければならない運命にあったのではないかと、この道を通る為の基本がすでに生まれた時から養われていたと思うのです。

私は今の子供のように、蝶よ花よと育てられたわけではありません。子供の頃より、色々な逆境の中、堪えて忍ぶという、人生の基本を経験として学んで来ました。

今の子供にゲームでの生活をしろと言えば出来ないでしょう。何故なら、親が出来ないからです。戦後私達は、難儀、苦勞の中生きて来たので、子供だけにはと、過保護に育てられた方々が丁度今、親になって子供を育てているからです。私は思うのですが、自分達が堪えて生きて来たのなら、子供にもそれを伝授して行くのが、親の道ではないでしょうか。近年、教育臨調がどうのとか、子供の教育問題など、話題になっておりますが、本当は子供ではなく、もう一度親から教育をやり直さなくては駄目だと思うのです。

風雲急を告げるというのか、私がやっと身に付けた服の仕立てを始めた頃戦争となり、喜んでゲームへ殺されに行きました。しかし、幸い弾に当たらず、28年間生きて来ました。そして運と同時に、私を守って来たのは子供の頃からの色々な経験があったからだと思うのです。身をもって得た経験とその応用で、例えば、毒物、外敵より身を守ってこれたのです。そして、もう一つ私を支えたのは、精神力だったと思います。肉体的には色々異状があったのですが、人間、気が張ってれば、多少の事は乗り切れると思うのです。私は、最後まで生きる事に対して気力を失なわなかった結果、帰国出来ました。よく帰って来たと喜んで下さる人もあれば、私の兄の肉を食べて生きていたんだらうと罵る人もあります。生きて帰って良かったのか悪かったのか、今でも時々悩む事もあります。

現代、サバイバル、サバイバルと言われるますが、いつの世も、どこでも、やる気になれば何でも出来ると思うし、また、甘える心があれば、何をしても駄目だと言えらると思います。(文責・橋本)

◇次回例会(2月14日)

講演 “芝居あれこれ”

女優 たかべしげこさん

(紹介 谷口君)

◇次々回例会(2月21日)

F S Mの為、講演はございません。